

(1) 事業の目的

富士山の世界遺産登録を受け今後の交流の拡大が期待される山梨静岡交流圏域において、交流・連携の取組を通じて地域の価値を高め、豊かなくらしを実感できる、魅力あふれる圏域づくりを進めていくことにより、将来にわたる交流圏の活性化を図る。

(2) 指標①：山梨静岡交流圏域における観光入込客の増減率

$$\text{山梨静岡交流圏域}^{※1}\text{における入込観光客}^{※2}\text{の増減率} = \frac{\text{評価時点の年間入込観光客数} - \text{H25の年間入込観光客数}}{\text{H25の年間入込観光客数}}$$

※1 山梨静岡交流圏域 …静岡県：伊豆、富士、山梨県：峡南、富士・東部

※2 入込観光客 …各地域を訪れた人の延べ人数とし、宿泊客数及び日帰り客数を合計した数

指標②：上記のうち、静岡県内における観光入込客数

指標③：伊豆中南部半島振興地域における観光入込客数

指標の達成状況

指標①：平成31年度末の最終実績値は14.2%の増加であり、目標値（5.6%増）を達成した。

指標②：平成31年度末の最終実績値は5.2%の増加であり、目標値（5.6%増）を達成しなかったが、観光客数は増加した。

指標③：平成31年度末の最終実績値は24.2%の増加であり、目標値（10.4%増）を達成した。

計画の成果目標	定量的指標			
	H25当初	H31末最終目標	H31末最終実績	達成率
山梨静岡交流圏域における観光入込客の増減率	(103,208千人)	5.6%増加 (108,974千人)	14.2%増加 (117,832千人)	108.1%
上記のうち、静岡県内における観光入込客数	(72,440千人)	5.6%増加 (76,487千人)	5.2%増加 (76,220千人)	99.7%
伊豆中南部半島振興地域における観光入込客数	(11578千人)	10.4%増加 (12,786千人)	24.2%増加 (14,383千人)	112.5%

(3) 指標に関連する実施事例



(4) 定量指標以外の効果発現状況

ボトルネック箇所の解消により渋滞が緩和され旅行速度が上がったほか、車両相互通行のすれ違い困難な狭隘区間が解消されることで、災害に強い道路ネットワークの構築につながった。

(5) 今後の方針と目標達成見込み

アフターコロナの観光需要増加も見据え、引き続き、各事業の進捗を図ることで、交通・環境・防災等の面から本交流圏の活性化を図る。